

武蔵武士の台頭と南河原石塔婆

奈良時代から平安時代前半までの行田市域では、築道下遺跡(野)、小針遺跡(小針・埼玉)、馬場裏遺跡(桜町)、池守遺跡(中里)など、古墳時代から続く集落に加えて、原遺跡(渡柳)、小敷田遺跡(小敷田)などの新しい集落が誕生し、律令体制の下で安定した発展を遂げていました。

ところが、平安時代の中ごろ(10世紀中ごろ)になると、こうした集落はいずれも衰退を始め、11世紀初めごろにはほとんどが姿を消してしまいました。このころ、行田市周辺の低地では、地震や気候変動、群盗の蜂起などの社会不安が広がって、多くの人々が村を捨て去っていったようです。

律令体制が崩壊したこの地域で、やがて新たな支配者となる武士たちが活動を始め

ます。「吾妻鏡」、「平家物語」には、源平合戦から鎌倉時代までの行田市域の武士と思われる河原氏、須加氏、若尾玉氏、長野氏、行田氏、忍氏、志水氏、渡柳氏、真板氏の活躍が記されています(当時の武士は、一族の発祥地を名字としていました)。

この内、畠山重忠の弟で、源平合戦などで活躍した長野三郎重清の館と思われる館跡が、長野工業団地内の神明遺跡で、鎌倉時代末に六波羅探題を守って近江の番場宿で自刃した渡柳弥五郎の館の堀と思われる溝が、渡柳のやなぎ幼稚園周辺の内郷遺跡で、それぞれ発掘されています。

また、南河原の観福寺には、源平合戦の一の谷の戦いで奮戦、討ち死にした河原太郎・次郎兄弟の供養塔と伝えられる2基の板石塔婆が、国指定史跡「南河原石塔婆」として保存・公開されています。板石塔婆は墓塔や供養塔として鎌倉時代から室町時代までに立てられた石造物です。残念ながら「南河原石塔婆」は、年代や刻まれた人物名が河原兄弟とは直接結び付きませんが、鎌倉時代後半を代表する板石塔婆で、歴史的価値の高いものです。



南河原石塔婆

(文化財保護課 中島洋一)

キラリ元気

No.96 最終号

炊飯器で作るバナナケーキ

炊飯器の裏わざ

バナナの主成分は炭水化物(糖質)で、1本あたりのエネルギーは、ご飯半膳分に相当します。便を軟らかくするペクチン、整腸作用があるオリゴ糖、血圧の上昇を防ぐカリウムも含まれています。

そのまま食べるだけでなく、失敗なく作れる簡単ケーキをおやつにいかがですか。

材料(1釜分)

バナナ…1本 レモン汁…少々
A【小麦粉…1.5カップ 砂糖…1カップ 卵…2個 サラダ油…大さじ4 ベーキングパウダー…小さじ1 塩…小さじ1/4 バニラエッセンス…適宜】

作り方

- ①バナナの皮をむいてボウルに入れ、レモン汁をかけて泡立て器で粗くつぶし、Aを加えてよく混ぜ合わせる。
- ②炊飯器の内釜に薄くサラダ油を塗り、①を流し込み平らにする。
- ③炊飯スイッチを入れ、保温に切り替わったら5分程度おき、再度スイッチを入れる。竹串を刺して生地が付かなくなるまで2~3回繰り返し、最後に保温で10~15分おいて表面を乾かす。

栄養成分(1人分)

エネルギー 233kcal たんぱく質 3.6g 脂質 7.8g 炭水化物 293.2g 食塩相当量 0.3g
カリウム 129mg



長い間ご愛読いただきありがとうございました。
これからも食を大事に健康でお過ごしください。

(社)埼玉県栄養士会 行田・羽生の会

今月の表紙

1月29日、グリーンアリーナでなわとび大会が開催されました。跳び続けた時間を競う時間とびなどの個人種目や、長縄を使った1分間とびや10人並びとびの団体種目が行われ、参加者は、縄に引っかからないように慎重に、そして力の限り精一杯跳んでいました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。

ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています